北海道新聞（留萌宗谷管内版）　30年8月25日（朝刊）

2泊以上で1泊1人5千円支給

遠別町の合宿補助好評

【遠別】スポーツや文化団体の合宿を遠別に誘致する町の「合宿のふるさと」事業が本年度で3年目を迎えた。町内で2泊以上すれば1泊につき1人5千円を補助するなどの制度。本年度は既に過去最多の3件の利用があり、事業は軌道に乗りつつある。（福田講平）

本年度3年目　樽商大バレー部など3件

遠別で練習に励む小樽商大バレーボール部

同事業は2016年度に開始。宿泊費補助のほか、体育館などの施設使用料を町外の団体が通常使う場合の金額から8割免除する。利用する団体は1年目は0件だったが、昨年度は岩見沢西高野球部が初めて利用した。

本年度はさらに好調で、今月に入り、同高野球部と小樽潮陵高野球部、小樽商大バレーボール部がそれぞれ制度を使って合宿した。

このうち22日から3泊4日の日程で遠別を訪れた小樽商大バレーボール部はここ10年、道央の同じ地域・施設で合宿していたが、宿泊施設が食事の提供を中止することになり不都合を感じて、今年の新しい合宿地を探していた。

その際、地域貢献活動を進める北海道銀行天塩支店の支店長が、前任地の小樽で懇意にしていた同部に町の制度を紹介、同部初の遠別合宿が実現した。

同部は選手、監督ら26人が町内の旭温泉に宿泊。朝食と夕食のほか、旭温泉がつくる弁当も昼食として用意されて1泊約7千円。これが補助により実質負担2千円で済む。中津川雅宣監督は「宿泊施設で食事が用意されているのがありがたい。涼しいので追い込んだ練習ができる」と話した。

町は今後も事業をPRしていく意向で、「若い人がこれだけ遠別に来ることはめったにない。交流人口が増え、経済効果も高い。文化団体の誘致にも力を入れたい」と話している。

（このうち22日から3泊4）